

科目名		基礎看護学		単位(時間)	10単位(300時間)	
担当講師名		専任教員 他		DP	1・2・3・4	
科目設定理由		基礎看護学領域では、人間を理解し、その人にとって必要な支援を明らかにしていく看護実践の基盤を学ぶ。看護は、人間の生活と健康に関わりながら、その人らしい生活を支える実践に基づく学問である。本領域では、「人間・看護・健康・生活」の基礎的概念を理解し、専門職としての基礎的能力と資質を育成することを目的とする。 基礎看護学では、看護とは何かを考えることから始まり、患者を生活者として捉える視点を基盤に、患者理解と看護を結びつける思考過程を重視する。観察を通して患者の状態や生活を理解し、その人に必要な看護を考える力を育てることを目指し、観察技術、生活援助技術、看護過程を関連づけながら学習を進める。これらの学びを通して、各領域別看護学へとつながる患者理解と看護実践の基礎を形成する。 また、学生一人ひとりを成人学習者として位置づけ、自ら考え行動する主体的な学びを重視する。学習の過程では、自らの経験を振り返るリフレクションを取り入れ、他者との対話や協働を通して看護の意味を探究する。さらに、基礎的理論と看護技術を統合的に学び、シミュレーション教育を取り入れることで、実践力と臨床判断力の基盤を養う。 患者理解と看護を結びつける思考過程を早期に形成するため、「基本技術Ⅱ」を比較的早い段階に位置づけている。看護過程を通して観察をもとに患者の状況を理解し看護へとつなげる思考を学び、その後、基本技術Ⅰや生活援助技術において観察技術や生活援助技術を具体的に学ぶ。これにより、患者の状況を理解し看護を考える力を段階的に育成していく。 「看護学概論」では、看護の基本概念を理解し、看護の歴史的変遷や社会的役割を学ぶことで、看護の本質や専門職としての役割を理解する。「看護倫理」では、多様な価値観をもつ人々を理解し、相手の立場や思いを尊重しながら倫理的に考え行動する力を養う。「基本技術Ⅰ」では、コミュニケーション、安全確保、感染防止、フィジカルアセスメントなど、患者の状態を把握するための基本的な観察技術を学ぶ。「基本技術Ⅱ」では、看護過程の展開を通して対象理解と臨床判断の基盤を形成する。「生活援助技術」では、環境調整、活動、清潔、食事、排泄、休息など日常生活行動を支える看護援助を学ぶ。「臨床看護総論」では、治療や検査など身体侵襲を伴う医療における看護の役割を理解し、安全で安楽な看護実践へとつなげる。 これらの学びを通して、看護に必要な知識(理論)・技術・態度を関連づけて理解し、看護実践の基礎となる能力を養うとともに、生涯にわたり看護専門職として成長し続ける姿勢を培う。				
		科目名	看護学概論	基本技術Ⅰ	基本技術Ⅱ	生活援助技術Ⅰ
		単位時間	1単位 20時間	1単位 30時間	1単位 30時間	1単位 30時間
		履修時期	31期生 1年次 前期	31期生 1年次 前期	31期生 1年次 前後期	31期生 1年次 前期
		学習範囲	1 看護とは 2 看護倫理と主要概要 3 看護の対象と健康 4 社会と看護	1 看護技術と看護記録 2 コミュニケーション 3 安全確保の技術 4 感染防止の技術 5 フィジカルアセスメント	1 看護過程とは 2 患者の状態を捉え、必要な看護を考える	1 環境を整える技術 2 活動と休息の援助技術
科目構成	科目名	生活援助技術Ⅱ	生活援助技術Ⅲ	臨床看護総論	看護倫理	
	単位時間	1単位 30時間	1単位 20時間	1単位 30時間	1単位 20時間	
	履修時期	31期生 1年次 前期	31期生 1年次 前後期	31期生 1年次 前後期	31期生 1年次 前期	
	学習範囲	1 清潔・衣生活の援助技術	1 食事の援助技術 2 排泄の援助技術	1 経過別看護 2 呼吸・循環を整える看護 3 検査・処置時の看護 4 与薬時の看護	1. 看護倫理とは何か 2. 看護職の倫理綱領 3. 倫理的意思決定 4. 日常ケアと倫理 5. 医療における倫理の問題 6. 倫理的ジレンマ 7. 裁判事例① 8. 裁判事例② 9. 看護実践と倫理	
	科目名	基礎看護学実習				
	単位時間	2単位(90時間)				
	実習のねらい	基礎看護学実習は各看護学実習の基盤となる実習です。この実習では、患者との関わりを通して得た情報を整理し、患者の状態や思いに応じて必要な看護を考え、実践につなげる大切さを学びます。患者の健康障害や治療、入院環境などが身体面・心理面・社会面に及ぼす影響を考えて生活がどのように変化したのか、日々の関わりから健康回復に必要な看護を具体的に考えましょう。そして、患者の状態に合わせた日常生活援助を、安全・安楽・自立の視点から考え、指導者とともに実践していきましょう。 また、看護学生として、必要な報告・連絡・相談をしながら、倫理観に基づいた責任ある行動や態度を心がけましょう。看護師には自ら考え、判断し、行動する力が必要です。そのためには、日々実習の振り返りを通して、自分の関わりを省察し、患者にとってより良い看護とは何かを考え、次の行動に活かすことが大切です。 基礎看護学実習では、人との交流を通して、相手の表情や言葉、反応から思いを受けとめようとする姿勢を学び、信頼関係の基礎となる関わりを体験します。これらの学びを通して、看護の意義と喜びを実感し、自己の成長を感じながら看護者としての基礎的態度を身につけましょう。				